

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、自らの経験に基づき設問に素直に答えている論述が多かったが、問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの表面的な論述も散見された。また、実施した事項を論述するだけにとどまり、実施した理由や検討の経緯が読み取れない論述も少なからず見受けられた。自らが実際にシステムアーキテクトとして検討し取り組んだことを、設問に沿って具体的に論述してほしい。

問1

問1では、デジタルトランスフォーメーション（DX）を具体的に表現できていた論述からは、実際にDXに関わった経験がうかがえた。一方で、業務の改革や改善を伴わない、現行業務の単純なIT化・デジタル化をDXとしていた論述も散見された。論述されているDXの目的、目的の達成を阻害する情報システム上の課題、課題の解決手段としての改善内容、その際の工夫点について、それぞれの論理的整合が取れていないものもあった。DXの取組が増えてきている中、システムアーキテクトは、DXを現行業務のデジタル化ではなく、デジタル技術による業務の改革や新しい業務・ビジネス・サービスの創造と捉え、情報システムの開発・改修に際して、本来の目的や真の課題などを把握して、適切な提案や計画立案を行うことを心掛けてほしい。

問2

問2では、多くの論述が、利用者と直接の接点がない情報システムのユーザーインターフェースについて適切に解答しており、このような情報システムの開発が一般化していることをうかがわせた。一方で、自社内の情報システムのように、利用者と直接の接点がないと言い難い情報システムに関する論述も散見された。このような論述は、本問で問うている内容とは異なることに留意してほしい。また、一般論に終始して具体性に欠ける論述や、設問で求めている事項に触れていない論述も一部に見受けられた。システムアーキテクトとしての自らの経験や考えに基づいて、具体的に解答することを心掛けてほしい。

問3

問3では、多くの論述で、対象の組込みシステムの特徴・制約を踏まえ、再利用の容易化を考慮した改変・設計について具体的に解答していた。開発プロセスの変更にも及ぶ広い視点からの論述もある一方で、一般論に終始している論述や、特定部分の実装にとどまっている論述も散見された。

組込みシステムのシステムアーキテクトは、将来を見据えたアーキテクチャ設計・改変を行う際には、関係者に内容を説明する機会も多いと思われる。システムの特徴・制約を把握し、必要な解決策を特定するとともに、適切な提案ができるよう心掛けてほしい。